

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☒ OTHER: Small letters

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-289710

(43)公開日 平成8年(1996)11月5日

(51)Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 K 97/00			A 0 1 K 97/00	M
B 2 6 B 13/00			B 2 6 B 13/00	Z

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平7-123109

(22)出願日 平成7年(1995)4月24日

(71)出願人 593130463

中澤 孝作

群馬県佐波郡玉村町南玉230番地6

(72)発明者 中澤 孝作

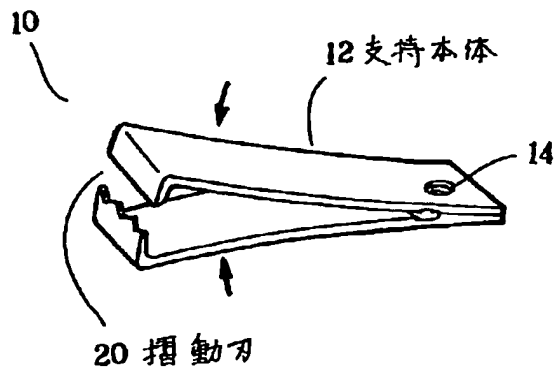
群馬県佐波郡玉村町南玉230番地6

(54)【発明の名称】 糸切具

(57)【要約】

【目的】 簡単に確実に糸を切断することができて、操作性の良い糸切具の提供を目的とする。

【構成】 一端を接合して他端側を離間させた弾性を有する毛抜型の支持本体を形成すると共に、一端を離間した端部のそれぞれには、押圧によって互いに接触状態で移動する摺動刀を設けた。この摺動刀間に糸を配設して、支持本体の両側を押圧することにより、糸を切断することができるものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 2枚の板状片を並設してその一端を接合し、他端側は互いに離間させて開放すると共に、この離間した端部同士を押圧すると、互いに接近する方向に移動し、この押圧力を取り除くと元の位置に復帰する支持本体と、

この支持本体の前記互いに離間させた端部側のそれぞれに、その切断部を対向させて配設すると共に、前記押圧力によって互いに接触状態で移動するように設けた摺動刃とからなることを特徴とする糸切具。

【請求項2】 2枚の板状片を並設してその一端を接合し、他端側は互いに離間させて開放すると共に、この離間した端部同士を押圧すると互いに接近する方向に移動し、この押圧力を取り除くと元の位置に復帰する支持本体と、

この支持本体の前記互いに離間させた端部側のそれぞれに、その切断部を対向させて配設すると共に、少なくともその一方には切断物の移動を阻止する位置決め手段を設けた摺動刃とからなることを特徴とする糸切具。

【請求項3】 前記一対の摺動刃は、前記支持本体の押圧によって、その切断位置が移動するように設定したことを特徴とする請求項1または請求項2記載の糸切具。

【請求項4】 前記支持本体に設けた摺動刃の一端に、摺動刃と離間させて突き差しできる錐を設けたことを特徴とする請求項1、請求項2、または請求項3記載の糸切具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、糸の切断を容易にできるように改善したもので、特に釣糸などの切断に好適する糸切具に関する。

【0002】

【従来の技術】本発明の従来例としては、実公昭62-25114号公報に示す釣用携帯具があり、これについて説明する。従来例で示す釣用携帯具は、弾性を有する板状片の一端を接合してV字形の毛抜を形成し、毛抜の挟み付ける部分に、一対のナイフエッジ状の刃を形成したものである。このナイフエッジ状の刃の間に糸を位置させると共に、向き合った刃同士を押圧により銜合させることで、糸を押切るように切断していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】毛抜の挟持部をナイフエッジとした糸切によれば、一対の刃を銜合させて糸を押切ることになるから、強い押圧力を要した。切断中に糸が刃の間から抜けてしまい切断しにくいという欠点もあった。特に、このような糸切具を釣用に用いると、戸外で手早く作業を行わなければならないことと、足場が安定しない場所もあることで、室内で用いるより更に切断作業の確実性が悪くなり、非常に不便を感じるが多かった。本発明は、このような不具合を解消するた

めになされたものであり、簡単で確実に糸を切断することができて、操作性の良い糸切具の提供を目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記不具合を解決するために、本発明は次のような構成としている。請求項1に記載した糸切具は、一端を接合し他端側を離間させた弾性を有する毛抜型の支持本体を形成すると共に、一端を離間した端部のそれぞれには、押圧によって互いに接触状態で移動する摺動刃を設けたものである。請求項2に記載した糸切具は、一端を接合し他端を離間させた弾性を有する毛抜型の支持体を形成した。一端を離間した端部のそれぞれには、押圧によって互いに接触状態で移動すると共に、切断物である糸の移動を阻止する位置決め手段を有する摺動刃を設けたものである。請求項3に記載した糸切具は、請求項1及び請求項2に記載した摺動刃が、鋸の刃のように切断位置を移動するように設定したものである。請求項4に記載した糸切具は、請求項1、請求項2及び請求項3に記載した摺動刃の一端に、摺動刃と離間させて錐を設けたものである。

【0005】

【作用】毛抜型支持本体の開脚した部分を、互いに接近させる方向に押圧すると、先端に設けた摺動刃が互いに接触した状態で移動して重なり合うから、押切りする従来例よりも押圧力が小さい。また、摺動刃に糸の位置決め手段を設けることにより、刃の間からの糸の抜落を阻止することができるものである。

【0006】

【実施例】本発明の実施例について、図面を参照して説明する。図1は本発明の糸切具を示す斜視図、図2は図1の要部を示す斜視図、図3は図2の作用を示す説明図である。図1で示すように本発明の糸切具10は、板状片を折曲してU字又は、V字状に形成した支持本体12と、この支持本体の開放端で、それぞれ対向するように配設した摺動刃20とからなる。この支持本体12と摺動刃20とについて、更に詳細に説明する。図1で示す支持本体12は、重ねた板状片の一端を接合し、他端側を互いに離間させたV字状に形成したものである。また、この支持本体はU字状に形成しても良く、図中の矢印で示すように開放端側を押圧して、押圧力を取除くと元の状態に戻るよう設定している。尚、支持本体12の接合部分には、孔14を設けて吊下げできるように配慮している。

【0007】図2で示すように摺動刃20は、支持本体12の開放端に対向状態で、かつ互いにその位置を少しずらした状態で配設した直線刃22と位置決め刃24とからなる。直線刃22は、先端の刃先を一般的な直線状に設けると共に、位置決め刃24は、鋸歯状に形成している。鋸歯状に形成したのは、鋸歯の凹部に糸を配置して、その位置ずれを防止する位置決め手段25としたものである。よって、鋸歯状の代りに、三角形の凹部を設

けた構造でも良い。

【0008】このような構造の摺動刃20の作用について、図面を参照して説明する。摺動刃を構成する直線刃22と位置決め刃24とが、押圧によって互いに当接するように設定したものではなく、鋏の刃のように、互いに接触した状態ですり動くように摺動させている。よって、図3で示すように直線刃22は内側で、位置決め刃24が外側となるように設定している。支持本体の開放端を、互いに近づける方向に押圧すると、点線で示すように直線刃22が、位置決め刃24の内側を摺動して降下することになり、従来例の押切り方式から、刃を滑らせる切断方式になるために、従来例よりも小さい力で糸を切断することができる。

【0009】摺動刃の他の例について、図面を参照して説明する。図4は摺動刃の他の例について示す斜視図である。図4で示すように他の例で示す摺動刃40は、刃先を傾斜面33で形成した直線刃32と、位置決め手段35を有する位置決め刃34とからなる。この直線刃32と位置決め刃34とについて、更に詳細に説明する。直線刃32は、図3で示した直線刃22と同様に直線状に設定したものであり、相違点としては刃先部分の高さが、その両端部で相違するように、傾斜させて高低差を設けている。すなわち、刃先を傾斜面33に形成して支持本体12を押圧しても、直線刃32の全対が位置決め刃34と同時に当接することなく、鋏の刃の如く順次切断位置が移動するようにして、切断力を更に小さくできるようにしたものである。位置決め刃34は、図2で示した鋸歯状の代りとして、刃先の一部に円弧形の凹部を設けることにより、糸の位置ずれを防止する位置決め手段35としたものである。

【0010】糸切具の他の例について、図面を参照して説明する。図5は糸切具の他の例を示し、図4で示す摺動刃に近接させて鉋を設けた要部斜視図である。図5で示す糸切具40は、図1で示したと同様の支持本体に設けられ、図4で示したと同様の傾斜面43を有する直線刃42と、位置決め手段45を有する位置決め刃44とを設けている。図4で示した摺動刃30と相違する点は、位置決め刃44の一端に、位置決め刃45とは少し離間させて、鉋46を配設したことである。この鉋46は、毛針と一体で設けた毛針取付用の環の中に、製造途中で塗布するラッカーなどが付着して目詰まりし、環の中に釣糸を通すことができないこともあって、このラッカーの膜を突き破るためのものである。鉋46は、その先端を細くして、環の中に突き差しできるように設定すると共に、この鉋46と対向する直線刃42の一端を切欠いて、切欠部48を設けている。この切欠部48は、摺動刃が作動した場合に、鉋46が当接しないようにしたものであり、支持本体の角部が鉋46を覆うようにすることで、危険防止の対策としている。この鉋46は、位置決め刃44の一端に設けたが、直線刃42側に設け

ると共に、切欠部48を位置決め刃44側に設けても良い。

【0011】このように構成した糸切具の使用例について説明する。糸切具を使用するには、刃先に設けた位置決め手段の凹部に、切断すべき糸の部分を入れて、図1の矢印で示す支持本体12の両側を押圧する。この押圧によって摺動刃を形成する直線刃と位置決め刃とが、摺動して切断することができる。この切断において、糸は位置決め手段によって支持されるので、刃先から糸が脱落することなく、確実に切断することができる。従来例で示した刃を銜合させる押切りによれば、太い糸を切断するのに大きな力を必要とするから、これを対策するには、支持本体を大型化しなければならなかった。しかし、本願によれば鋏の如く切断できるから、太い糸でも小型化した糸切具を使用して、対応することができるという作用を有するものである。また、摺動刃に隣接させて、支持本体の同一側に鉋を設けたことにより、支持本体を持替えることなく、糸切りと突き差しの両作業ができるという特徴を持たせたものである。尚、図2と図4及び図5とで示した直線刃と位置決め刃とは、支持本体の長手方向に対して、直交する方向に形成しているが、支持本体の長手方向とは斜交するように、これらの刃を本体とは斜めに設けても良いことはもちろんである。

【0012】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、一端を開放端とした毛抜型の支持本体に、互いに摺動して切断することができる摺動刃を設けたことにより、以下の効果を得ることができた。すなわち、切断する刃を摺動させることにより、従来例の押切り方式よりも、小さな力で切断することができるようになった。摺動刃に糸の位置決め手段を設けることにより、糸の脱落が防止され、より確実に切断することができるようになった等の効果を得ることができた。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の糸切具を示す斜視図である。

【図2】図1の要部を示す斜視図である。

【図3】図2の作用を示す説明図である。

【図4】摺動刃の他の例を示す斜視図である。

【図5】糸切具の他の例を示す要部斜視図である。

【符号の説明】

- 10 糸切具
- 12 支持本体
- 20 摺動刃
- 22 直線刃
- 24 位置決め刃
- 25 位置決め手段
- 30 摺動刃
- 32 直線刃
- 34 位置決め刃
- 35 位置決め手段

(4)

特開平8-289710

5

6

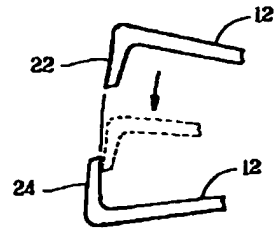
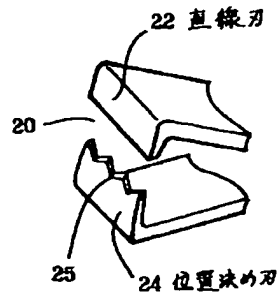
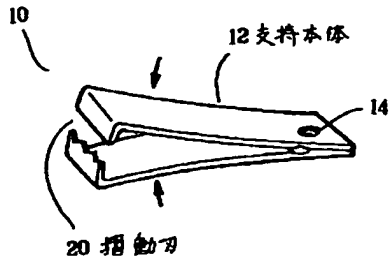
46 錐

48 切欠部

【図1】

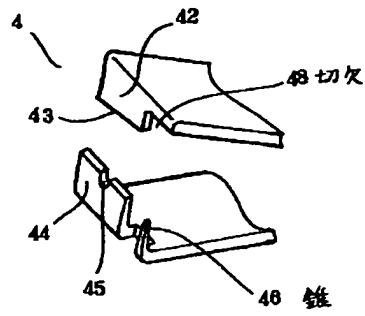
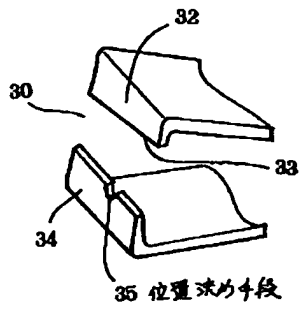
【図2】

【図3】



【図4】

【図5】



DERWENT-ACC-NO: 1997-028278

DERWENT-WEEK: 199703

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: String cutter for e.g. fishing line
- has mutually opposing sliding blade and cutting
portion provided in open end of support structure to
mutually move by contact state when pushing power is applied
to structure

PATENT-ASSIGNEE: NAKAZAWA K[NAKAI]

PRIORITY-DATA: 1995JP-0123109 (April 24, 1995)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	MAIN-IPC
JP 08289710 A		November 5, 1996	N/A
004	A01K 097/00		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
JP 08289710A	N/A	
1995JP-0123109	April 24, 1995	

INT-CL (IPC): A01K097/00, B26B013/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 08289710A

BASIC-ABSTRACT:

The cutter has a support structure (12) including a pair of plate-like pieces.
Each one end of the pieces are connected and the other end are open. By mutually pushing the open end, the pieces mutually approaches each other.

The pieces return to the original position when the pushing

power is removed.

A sliding blade (20) and a cutting portion are individually provided in the open end of the pieces at an opposing state, to mutually move by contact state when pressure is applied to the pieces.

ADVANTAGE - Cuts with smaller power by making blade slide.

Prevents string from dropping out by providing positioning unit of string in sliding blade.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/5

TITLE-TERMS: STRING CUT FISH LINE MUTUAL OPPOSED SLIDE
BLADE CUT PORTION OPEN
END SUPPORT STRUCTURE MUTUAL MOVE CONTACT STATE
PUSH POWER APPLY
STRUCTURE

DERWENT-CLASS: P14 P62

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1997-024036